

製品の環境影響化学物質全廃に向けて、  
仕入先企業と一体になって  
取り組んでいます。



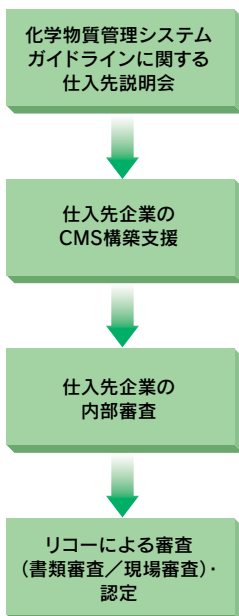
## 画像生産事業本部

資材統括センター 資材統括部 調達改善グループ 課長技師 小川 俊一 (写真左)  
資材統括センター 資材統括部 調達管理グループ 副参事 笠 進 (右)  
画像部品事業部 部品製造部 計画グループ 副参与 高山 進 (中央)

2005年1月、リコーは製品に含有する環境影響化学物質の全廃を求める欧州RoHS指令\*に準拠したカラーデジタル複合機「imaggio Neo C600/C455」を発売しました。環境影響化学物質を全廃するには、設計や製造部門での活動だけでなく、部品などを購買する資材部門の活動が重要になってきます。製造の上流工程となる仕入先企業で、環境影響化学物質の混入しない生産体制が構築されている必要があるからです。そのため、リコーの資材部門では、世界の生産拠点および約1,000社の仕入先企業と一体になって、環境影響化学物質が混入しない仕組み「化学物質管理システム(CMS:Chemical substance Management System)」の構築・認定に取り組んでいます。

\* EU電気電子機器危険物質使用制限指令(Restriction of Hazardous Substances Directiveの略)。電気電子機器への特定の化学物質の使用を制限するEU指令で、2003年に発効。2006年7月1日より規制開始。

## CMS構築・認定までの流れ



## INTERVIEW ⇒ 仕入先企業様

商社部門 ———— コニシ産業(株) 2005年1月13日認証取得



専務取締役 千葉 勝英 様 (写真左)  
テクニカル&クオリティサービス・  
アシスタントマネジャー 棚網 誠 様 (右)

私たちもリコーグループの一員になったつもりで、  
仕入先メーカーのCMS構築支援を行いました。

多くの仕入先から、  
まずは1社を対象にCMS構築

最初にCMS構築を依頼されたときは、当社は商社ですので、40社以上もの仕入先メーカーをどうやって管理すればいいかと途方に迷いましたが、リコーから「まず、仕入先1社のみを対象にはじめてみよう」との提案を受け、それならなんとか、とやる気になりました。

社員2名がリコーグループ  
CMS審査員研修を修了

商社におけるCMS構築とは、ある意味では、リコー

が仕入先企業に対して行う審査と同様のことを私どもがメーカーに行うということ。リコーに研修の開催をお願いして、2名の社員がCMS審査員研修を受けさせていただきました。自らが審査する側に回るのは、はじめてでしたが、弊社がEMSなどのリコーの審査・認証制度を数々クリアしてきた経験をいかして、メーカーの支援にあたらせていただきました。その結果、2004年末にはほぼ体制が整い、年明け早々に認証取得となりました。今後は、社内での人材育成とノウハウの蓄積を図りながら、仕入先メーカー約40社の審査を進めていきたいと考えています。

## Q CMSとは？

**A** 環境影響化学物質が、製品に混入しない仕組みづくりです。

リコーグループの製品から環境影響化学物質を全廃するには、部品、原材料、ユニットなどに使われていた環境影響化学物質を代替物質に変更していくこと、そして、仕入先企業の製造工程で、環境影響化学物質が混入しない仕組みを構築していただくことが重要です。化学物質管理システム(CMS)とは、環境影響化学物質が混入しない生産体制のことで、リコーは、仕入先企業にCMS構築の支援と認定を行っています。EMSとは異なり、CMSには世界的な基準がまだ存在しないため、仕入先企業向けにリコーグループ独自の「化学物質管理システムガイドライン\*1」を2004年4月に発行し、11月に改訂しました。このガイドラインには、RoHS指令の対象化学物質を全て含む「リコー使用禁止物質\*2」の把握など8項目の要求事項や、CMSの構築手順などが記載されています。

\*1 <http://www.ricoh.co.jp/ecology/guideline/02.html>

\*2: 28ページ

## Q システム構築のポイント？

**A** 仕入先企業の業種別に推進することです。

混入する可能性のある化学物質は、仕入先企業の業種によって異なります。リコーグループの場合、関連の深い業種は8業種(プレス、モールド、切削、ゴムローラ、メカトロニクス部品、電子部品、組立、商社)に分類できます。2004年4月から、世界の生産拠点で、仕入先企業への説明会を実施し、これと並行して仕入先企業のCMSを審査・認定する審査員を育成しました。さらに日本では、8業種から各1社ずつモデル仕入先企業を選定し、リコーから審査員が出向いてCMSの構築をサポートしました。各社とも2004年10月～2005年2月にCMSの構築・認定を完了しました。



仕入先企業へのCMS説明会

## Q 今後は、どのような活動を展開していきますか？

**A** RoHS指令開始前に、システムの構築・認定を完了します。

今後は、モデル仕入先企業をベンチマークしてもらうなど、ノウハウの水平展開を図り、世界の仕入先企業でのCMS構築・認定を加速していきます。また1次仕入先企業だけでなく、2次、3次仕入先を含めサプライチェーン全体でCMS構築を進めていく必要があります。そのためには、まず1次仕入先が2次仕入先のCMS構築をサポート・審査・認定できるよう、CMS構築を完了した1次仕入先企業での審査員育成に取り組んでいます。1次仕入先である商社に対しては、2次仕入先の材料メーカーなどにリコーの審査員が同行するといったサポートをすでに実施しています。2005年9月には、海外を含む主要生産拠点で1次仕入先企業のCMS構築・認定が完了する予定です。RoHS指令に基づく規制が開始される2006年7月に先立って、グローバルなCMSの構築が完了することになります。

## INTERVIEW ⇒ 仕入先企業様

プレス部門 (株)育良精機製作所 2005年1月13日認証取得

### 現場に禁止物質が混入しない仕組みづくり、調達ルートでの禁止物質の管理、排除に力を入れました。

#### 高価な測定器に頼らず、しっかりと工程を管理

CMS構築に着手した当初、高価な測定器の購入も検討しましたが、リコーから「検査以上に管理をしっかりと行うことが重要」とのアドバイスをいただき、結局購入せず、素材や物品の調査と工程管理の徹底に取り組みました。現場作業者に化学物質の基礎知識を持ってもらうのは重要ですが、「無意識に使っているセロハンテープやマーカーにも禁止物質が含まれているかもしれないんだよ」と言うと現場は

パニックになってしまいます。材料から消耗品に至るまで、工場内で使うものは調達ルートの入り口(購入段階)で禁止物質を排除し、作業者が意識せずに使えるような工夫をしました。

#### 材料・物品の調査は、リコーにあるデータも活用

当社で調査しきれない材料、物品については、リコーに蓄積された化学物質含有データを大いに活用させていただきました。さらに、一部の禁止物質含有素材に



取締役工場長 秋本 修 様 (写真左)  
製造課長 轟 辰也 様 (右)

ついては、取扱者の限定と目視による検査で対応しました。リコーはもちろん、油脂メーカーなどからも多くの協力が得られ、弊社が一足早くCMS認証取得できたことを嬉しく思います。



目視検査ミスを防ぐために、リコーの規格品とそれ以外に分類